

様式第2号（第3条関係）

行政視察等報告書

令和4年10月31日

米子市議会議長様

会派名 自由創政
代表者氏名 渡辺 穰爾
提出者氏名 田村 謙介 奥岩 浩基
塚田 佳充 戸田 隆次

下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	渡辺穰爾、岩崎康朗、稻田清、岡田啓介、田村謙介、奥岩浩基、塚田佳充、西野太一、戸田隆次
期日	令和4年10月18日から20日まで（3日間）
〔概要〕（年月日・場所・内容）	
10月18日（火）	
①東京都武蔵野市 武蔵野クリーンセンター （運転管理状況及び建設立地に係る周辺住民対応について）	
②埼玉県草加市 そうかりノベーション事業エリア （そうかりノベーションまちづくり事業について）	
10月19日（水）	
③埼玉県鶴ヶ島市 鶴ヶ島市老人福祉センター （eスポーツによる認知症予防・高齢者のデジタル利用支援の推進について）	
10月20日（木）	
④新潟県糸魚川市 糸魚川市役所 （大糸線活性化協議会の取り組み状況について・糸魚川ジオステーションジオパネルの整備状況について）	

[所 感 等]

別紙のとおり

経 費

旅費合計 1,016,867円

米子市議会 会派自由創政 視察報告書

戸 田 隆 次

1. 目的

現在、鳥取県西部広域行政管理組合が新清掃工場について、建設計画中有であります。米子市は鳥取県西部広域行政管理組合の構成市町村であり、今後大きな財政負担対応が求められていくと思考します。

また、同施設の立地については世論的に、迷惑施設として住民から疎まれる実態があります。同施設の建設立地時の状況・施設運転管理の状況について視察研修を実施し、新清掃工場建設事務対応に反映すべく、見聞してきましたので次の通り報告致します。

2. 日時 令和4年10月18日(火) 11時～12時30分

3. 場所 東京都武蔵野市 武蔵野クリーンセンター

4. 視察内容

1) 武蔵野クリーンセンター

① 処理対象ごみ

・燃やすごみ

- ・燃やさないごみ
- ・粗大ごみ
- ・危険、有害ごみ

2) クリーンセンター以外ごみ

- ・資源物（戸別収集）
- ・資源物（拠点回収）
- ・家電リサイクル
- ・まだ使えるもの

3) 施設概要

- ・敷地面積 約17,000 m²
- ・建物高さ 約15 m
- ・階数 地上3階 地下2階
- ・構造 (地下) 鉄骨鉄筋コンクリート造 (地上) 鉄骨造・鉄筋コンクリート造
- ・煙突 高さ59 m
- ・焼却炉 全連続焼却式ストーカ炉
- ・処理能力 120 t / 24 h (60 t / 24 h × 2 炉)

- ・発電設備 蒸気タービン発電機（最大出力1,500kw）
- ・プラント設計—製造—施工 荏原環境プラント株式会社
- ・施設運営 （株）むさしのEサービス
- ・運営委託期間 20年間

4) 武蔵野クリーンセンター建設事業概要

- ・事業方式 DBO方式（設計+建設+運営20年間の包括—公設民営）
- ・総事業費 （建設費—111億2,468万円 運営費—105億6,050万円）
- ・余熱利用方式 ごみ発電+所内及び近隣公共施設への電力、蒸気利用
- ・ごみ発電 抽気腹水タービン 最大出力2,650kw
- ・ガスタービン 最大出力1,500kw
- ・年間計画発電量 約15,000(Mwh)
- ・計画エネ効率 発電効率20.5%

5. 考察

- 1) 同施設の立地については、武蔵野市役所の隣に建設されており、施設建設に当たっては施設周辺住民等で組織する施設建設協議会を設置し、施設建設計画を推進したとの事であり、住民の反対は皆無であったと

の事。住民とのコンセンサスが十分に図られていた事が伺える。

また、外観構造においては施設周辺住民に配慮し、柔らかい木目調のデザインを配し外観意匠に相当な工夫がなされており、隣の武蔵野市役所第2庁舎と思わせる景観であった。

施設処理能力は60t炉×2基=120t/24日である。処理対象ごみ量・定期点検・基幹改良工事等を鑑みると、3基の炉の確保が想定される場所である。しかし、イニシャルコスト・ランニングコストを想定した場合、更なる財政負担が見込まれるので、予備炉を設置せず突発修繕・定期的修繕については、施設運転を完全休止し対応するとの事。完全休止した場合、ごみ収集は行わないものとしており、市民への周知・理解はある程度得られているとの事である。

西部広域が建設計画中である新清掃工場について、住民の方々の理解を得るべく術について、当局と議会が一体となり取り組むべきと新たに意を強くしたところだ。

また、処理能力における炉の基数・キャパシティーは住民から排出されるごみの量に大きく左右される。西部広域圏域内のごみ分別排出体系の再構築について多角的に議論したい。

米子市議会 会派自由創政 行政視察報告書（草加市）

1. 視察日時 令和4年10月18日 午後2時30分より午後4時30分まで
2. 視察先 草加市役所、草加リノベーションまちづくり対象エリア
(草加市役所にて座学後に現地にて対象施設視察)
3. 視察項目 「そうかりノベーションまちづくり事業について」
4. 草加市について 人口 249,645人(米子市の約1.7倍)
面積 27.46平方キロメートル(米子市の約2割)

4. 事業概要

「そうかりノベーションまちづくり」とは、平成27年度の市長施策方針の「リノベーションまちづくりの推進」と「草加家守構想の策定」が元となり、民間のまちづくり会社（家守会社）が主導するかたちで補助金に頼らず、有休不動産をリノベーションし再生することで地域の抱える課題の解決につながる新しいまちのコンテンツ（ビジネスやプロジェクト）の集積を図り、短期間にエリア内の変化を生み出す都市再生手法であり、平成28年に家守部会・不動産部会・建築部会・金融部会・学生連携部会からなる民間組織の「そうかりノベーションまちづくり協議会」が設立された。5つの家守会社が誕生し、22の新規ビジネスが創出され、草加駅東口周辺の有休不動産はほぼ解消された。また、10年近く下落傾向の続いていた基準地価は平成29年より上昇に転じ、埼玉県内の住みたい街ランキングにおいても令和元年までは10位圏外であったが令和2年には7位と上昇した。

5. 視察内容

草加市役所にて担当者より座学にて「そうかりノベーションまちづくり」事業についての説明を受け、その後質疑時間をいただいた。座学終了後は対象エリアに趣、実際に現地を歩いて見学させていただいた。

6. 所感・考察

今期初となる県外への行政視察は、米子市議会ではコロナ禍による自粛から実に2年半以上振りとなり、社会情勢がコロナ以前と大きく変わった中でも結果を出している草加市への行政視察は大変に有意義なものであった。

米子市では昨年度、「よなご住んで楽しいまちづくりファンド」が設立され、官民共同で有休不動産の有効活用と賑わいを創出する事業の支援を行い、本年度に第1号案件の事業がスタートし、今後に期待感が強まっている所である。一方、草加市においては補助金に頼らず短期間で結果を出しており、その手法や経緯について担当者より話を伺った。まず驚いたのは、担当者から伝わってくる気持ちと熱量のこもった草加市の為に今この事業を達成しなければならないという強い気持ちであり、これは草加市に限らず、全国の様々な事業の先進自治体や全国トップの先進自治体に共通するものであり、米子市・米子市議会でも大いに見習い実施すべき事であろう。事業の計画に至る前段として、日本国の人口減

少についての話があり、平成22年頃をピークに全国の人口は急激に減少し、統計上今後100年程度で人口は3,000万人台まで急速に減少するため、今のこの時代は今までの経験が参考にならない時代であり、自治体を「運営」する立場から「経営」する心構えで課題に対して向きあう必要があり、市民と行政が力を合わせることの必要性と公民連携の有用性についての理解が必要だという危機感と事業に対する考え方の説明があった。そして、公民連携により自治体において、地域密着型のビジネスが広がり、地域内経済循環が促進され、最終的には行政コストの抑制につながるといった視点から、そうかりノベーションまちづくりに取り組んでおられた。草加市では約34%が市内従業、約37%が東京都内で働き、残りは県内外で働いており、6割以上が市街で働くいわゆるベッドタウンと呼ばれる地域であり、また、市内での購買状況についても食料品・日用品は市内が9割以上あるものの、洋服・衣料品等は5割、家族での買物に至っては2割程度の現状であった。また、かつての商店街通りは駅から近い立地面と東西に長いいため南向きの部屋を作りやすいこと等からその多くがマンションへと姿を変えたものの、周辺地価は平成6年をピークに直近10年では下落が続いていた。

そのような背景の中、平成27年には全国初の取り組みとして専従職員を1名配置、翌年度は2名体制、平成29年以降は3名体制で行政側としても取り組まれ、平成28年からのそうかりノベーションまちづくり実施に伴い、平成29年からは対象エリアの地価が連続して上昇、4年間で22の有休不動産の解消、5つの法人の設立、県内住みたい街ランキングのトップ10入り、等と短期間で実績を残している。また、コロナ禍においてもその勢いは留まること無く、令和3年度の飲食店向け物件の賃料ではコロナ以前と比較し2.02倍と関東圏域1位の伸び率をみせている。さらにはリノベーション対象店舗では過去最高の売上月があったとの報告もあったと伺った。この短期間での成果の背景には、官民連携で実績を出すために行政側の役割を明確にし、構想から事業実施まで1年半をかけた綿密な準備とスタートダッシュをきれるよう同一年度での複数のリノベーション事業の実施、さらには同一の職員による業務継続などによるところが大きかったのであらうと感じた。実際に行政側として、都市再生推進法人制度の導入、民間都市開発推進機構と地元銀行によるファンドの設立、専門部署であるリノベーションまちづくり推進係の設置を行われ、説明された担当者も7年間携わっていた。またこの事業では長く草加市で活躍していただける人を選定し事業をすすめ、地域内経済が循環するよう事業を通じての人の育成を市民が投資者となるような暮らしを創出する仕掛け、を行っていた。また行政側の人の成長も必須との考えから資料の作成やキャッチコピーの作成も草加市の担当職員自ら作成されていたのは驚きであった、一見、外注されたかと思ってしまうようなキャッチコピーや資料も若手世代にささるようなものであった。余談ではあるが、マンションの広告の謳い文句も以前は駅から〇分、都内から〇分、といったものが主であったそうであるが、事業実施後は、「いま草加がおもしろい。」といった、そうかりノベーションまちづくり事業にフォーカスしたコピーとなったそうである。また、行政側の責任として、行政計画で

活動を市として公式に応援し、そのために財源と人員を確保することを明確にし、市の未来の為に事業継続を担保する必要性があるとの話もあった。

視察を終えての所感であるが、米子市でもファンドの設立と事業実施や有休不動産の活用や市内経済活性化や内需による経済循環の参考として草加市を訪れたが、そこでは、市の職員として強い当事者意識を持って働く担当職員とそれをバックアップする市の体制と議会側を説得出来る事業に対する綿密な準備があった。米子市においても今後の人口減少は避けられない課題であり、期間と目標を定めて官民一体となってまちづくりを進める必要性を改めて強く感じた。民間・行政・市民、それぞれが連携し活躍出来る場の創出と今までの経験にとらわれない新しい事業への取り組みは喫緊の課題であり、コロナ禍に置いても実績のある草加市の事例を大いに参考にし、米子市独自のまちづくりに対し、今後議会側としても更に取り組んでいく所存である。

会派自由創政 鶴ヶ島市視察報告

(eスポーツによる認知症予防について)

1. 目的

高齢者のデジタルデバイド（情報格差）とデジタルリテラシー（情報活用能力）の両面を解決する事と、健康づくりをキーワードに「デジタル活用支援（スマホ教室）及び継続的な支援」と「シルバーeスポーツを活用した認知症予防」を実施することにより、高齢者の生活の質向上を図り、eスポーツを通じて、生きがいつくりや仲間づくり、世代間交流など、高齢者の社会参加の創出を図っておられる鶴ヶ島市を視察し、今後の米子市福祉・認知症対策事業の参考にさせていただきたく視察研修を行った。

2. 視察日程 令和4年10月19日（水）午前10時30分から11時30分まで

3. 鶴ヶ島市について

人口 : 69,927人（令和4年4月1日現在）

65歳以上人口 : 20,389人

高齢化率 : 29.16%

老年人口割合 : 29.1%

生産年齢人口割合 : 60.0%

年少人口割合 : 10.9%

面積 : 17.65km²

4. 高齢者の現状

①デジタルデバイド（情報格差）問題

高齢者の中には、「インターネットを利用したことがない」、「スマホの使い方が分からない」など、これまでもデジタル化の恩恵を受ける事が出来ない状況があった。

ここで、新型コロナウイルスの感染拡大により、「ワクチンの予防ができない」、「説明用の動画を見る事が出来ない」など、改めてデジタルデバイド（情報格差）の問題が浮き彫りとなっている。

②生活機能低下リスク増加

新型コロナウイルスの感染拡大が、高齢者の日常生活の中で「人と会う機会の減少」や「運動する機会の減少」という形で現れた。また、「毎日の生活に充実感がない」事が、「うつ傾向」に繋がっている可能性が高い状況となっている。

5. 所感

人生百年時代を迎え、米子市においても認知症になるかたが更に増えると予想される。鶴ヶ島市はこの事業を始めたのが令和4年4月から準備し6月から週1～2回目途に実施。初回の認知機能維持

効果検証は12月に行うとのことだった。家から外に出る事が目的となっていて、「市民が市民を支える」がコンセプトになっていた。

米子市もeスポーツとスマホよろず相談を公民館単位で取り入れていき、認知症予防、フレイル対策、健康寿命増進はもとより、地域支え合い、世代間交流、防災情報コンテンツをさらに向上させる取り組みになると感じた。

行政主体で高齢者から子どもまで参加できるeスポーツイベント開催など、夢膨らむ事業が考えられることから、早急に取り組んでいただきたい。

効果検証も必要不可欠なので、必ず行っていき、改善点を見つけバージョンアップさせ続け持続できる事業となってもらいたい。今後の高齢化社会に新しい光が差すような大変参考になった視察であった。

視察日時 令和4年10月20日(木) 9時30分から11時30分まで

開催場所 糸魚川市役所 5階 第一委員会室

視察項目 鉄道を活かした駅前まちづくりについて

- 1・大糸線活性化協議会の取り組みについて
- 2・糸魚川ジオステーション ジオパルの整備について

フォッサマグナやヒスイ、塩の道や火山など、優れた地質・自然遺産が数多くあり、ユネスコ世界ジオパークに認定された新潟県糸魚川市は、長年の悲願であった北陸新幹線 東京ー金沢間の開業に伴い、首都圏および金沢方面への利便性の向上が図られた一方で、新幹線によるストロー現象や北陸本線の3社分割の第三セクター化による分断化により乗降客数の低下が見られるようになった。また高い高齢化率を背景としたローカル線 大糸線の糸魚川ー南小谷間の廃線危機など、新幹線の開業が地域全体の活性化に必ずしも寄与できていない一面も併せ持っている。本市においても山陰新幹線や伯備新幹線を待望する声がある一方で、利便性から取り残された地元ローカル線の維持に向けて、官民でどのような取り組みをされたのか。また、米子駅南北自由通路等整備事業が進捗する中、整備される米子駅南口周辺の新たな賑わい創出策が求められるが、希少価値のある退役車両を活用した賑わい創出策について糸魚川市はどのように JR 側と交渉を行いジオステーション ジオパルの整備を進めて来られたのか、今後の参考とするために表記の2項目について行政視察を行った。

1・大糸線活性化協議会の取り組みについて

大糸線は長野県松本市と糸魚川市を結ぶローカル線であるが、現在問題となっているのは糸魚川ー南小谷間 35.3km である。かつては大阪方面からスキー特急列車が運行され、大糸線に直接乗り入れていたが、スキー人口の減少に伴い廃止となり現在は普通列車のみとなった。

南小谷以南は JR 東日本の管轄の電化区間であり、現在も新宿から特急電車が乗り入れているが、南小谷以北は JR 西日本の管轄の非電化区間であり、ワンマンのディーゼルカーが1日9往復18本という極めて少ない本数で運転しているのみである。この区間についての一泊当たりの平均通過人員数は2019年102人、2020年50人と、最盛期の平成4年度と比べ95.7%減という極めて厳しい状況にあり、2018年から2020年までの収支は6億1000万円の営業損失となっている。

この状況を打破すべく、平成31年2月に新潟県と長野県の各市町村自治体と JR 西日本、そして乗降客が少ない南小谷以南の信濃大町駅間も含めた大糸線の活性化を図るために JR 東日本もオブザーバー構成員とした大糸線活性化協議会が設立された。

米田市長は現在の状況について「北陸新幹線が福井県の先、関西方面への延伸が予定される中、大糸線は糸魚川から白馬エリア、さらに関東中京方面へ日本海側と太平洋側を結ぶ重要なネットワークを形成しており、廃止させるわけにはいかない」と強い危機感を表明しておられ、広域連携で様々な手法で路線の維持を図ろうとされていた。

活性化協議会の事業内容は定期券購入助成金や観光列車の運行、サイクルトレイン等多岐にわたり、比較的低年齢の世代に向けた PR など地域の子供たちに対し大糸線に愛着を持たせるような施策であると感じた。しかしながらコロナ禍で観光需要が落ち込む等、引き続き厳しい環境にあり、早期の改善は困難と感じた。また通院など日常使いの高齢者がほとんどいないという説明があり、この状況が変わらなければ持続可能な交通手段としては国が求めるバスやBRTなどの地域モビリティへの転換は必然の流れなのかもしれない。

幸いに本市の通勤通学エリアにある伯備線、山陰本線、境線などに関しては現在このようなシビアな状

況にはないものの、地方における鉄道輸送の維持の難しさや高速鉄道誘致に伴う痛みも知ることとなる貴重な研修となった。

2・糸魚川ジオステーション ジオパルの整備について

糸魚川駅の新幹線駅化工事に伴い、高架下 1 階部分を活用して糸魚川市が整備した糸魚川ジオステーション ジオパルは糸魚川市が誇る国石ヒスイと鉄道をテーマにした観光案内所である。名称は「ジオパーク」「ジオラマ」の「ジオ」と、駅の「ステーション」、そして友達や仲間を意味する「パル」を組み合わせたもので、ジオパークやジオラマ、鉄道愛好の輪が、友達・仲間に大きく広がっていく、その中心施設となるようにという願いが込められた。

この施設は糸魚川市が約 10 億円（建物 5 億円＋展示物 5 億円）で整備したもので、現在は糸魚川市観光協会などへの外部委託により年間約 1700 万円の年間運営費が発生している。

内部はジオラマ鉄道模型ステーション、キハ 5 2 待合室、ジオパーク観光インフォメーションセンターと観光案内所で構成されており、N ゲージ、HO ゲージなどの鉄道模型を運転体験コーナー（有料：30 分 500 円）では、前面に設置されたカメラで精密なジオラマの中を画面を見ながら走行させることができるなど大人から子供まで楽しめる。

このジオラマを制作し、管理運営している株式会社 DDF（東京都大田区）は、かつて米子市内にあった YONAGO れいるろおど館（2006 年閉館）の立ち上げにも携われたとのことで、米子市からの行政視察を歓迎されていた。館内には所狭しと様々な展示物が並んでいたが、観光協会のお話によると、糸魚川市は鉄道のまちとして鉄道会社（国鉄・JR）に勤務していた人が多く、個人的に収集していた鉄道関連のコレクション（行先表示板、サボなど）が豊富に市中にあり、例えば収集者が亡くなった後に処分困った奥さまなど家人から捨てるのは勿体ないので展示して欲しいと持ち込まれるケースが多くあるため、展示物の収集には困らなかったとのことであった。また、かつて糸魚川市議会議員であった米田市長は、以前から大糸線の活性化などに取り組んでおられ、当時大糸線を走っていたキハ 5 2 気動車が廃止になる際、JR 西日本金沢支社に直接譲渡を依頼され、新たに整備する観光案内所の展示鉄道資料として譲り受けることができたとのこと。JR 側は「どうせ壊すので」と快諾されたとの事で、糸魚川市と JR 西日本金沢支社との間で長年にわたり良好な信頼関係が構築されていたと想像できる。

譲り受けたキハ 5 2 は建屋内での待合室としての活用だけでなく、定期的に駅舎から外側に数十メートル移動させ屋外展示を行うなど、観光の目玉としての展示活用が図られていた。また 2016 年に廃止された豪華列車トワイライトエクスプレスの再現車両や SL も追加展示するなど、旧レンガ車庫の一部や退役車両を活用した「レトロな鉄道のまち糸魚川」を標榜した観光活用が図られていた。

現在、米子市は駅南側の賑わい創出について県、市、JR、商工会議所の 4 者協議を進めているが、いまだ具体的な案は示されていない。一方、2024 年に引退する特急やくも号 381 系特急電車は旧国鉄の特急として全国唯一現役で走る大変貴重な車両であるが、JR 西日本の計らいにより引退までの間、1 編成 6 両が旧国鉄の塗装で山陰と岡山の間を 1 日 2 往復している。そして、その雄姿に触れるため多くの鉄道ファンが当地を訪れている。この車両（非貫通型先頭車両）については旧米子鉄道管理局の総力を挙げて取り組んだ伯備線、山陰本線電化事業の象徴であり「鉄道のまち米子」を内外に示す大変貴重な鉄道資料であることから引退後は本市が譲り受けて、大切に保存展示活用すべきである。幸いに米子駅新南口駅舎には廃止となる引き込み線が接続するため、その線路を活用した展示や湊山公園から移設予定の SL D51 も併せて展示する等、「鉄道のまち米子」の歴史に触れる観光資源となりうる取り組みであると考える。退役車両の保存展示については今後も JR との協議を進める必要があるが、糸魚川市の取り組みは行政と JR との協働による鉄道遺産の保存活用の成功事例として大変参考となるものであり、新米子駅周辺の賑わい創出のヒントとなる行政視察となった。（別紙添付資料あり）

行政視察行程 (会派：自由創政 9名)

月 日	行 程	宿 泊 先
10/18 (火)	7:20 8:40 9:24 9:47 9:56 10:16 10:23 10:35 10:44 10:52 米子空港 == 羽田空港 == 品川駅 == 新宿駅 == 三鷹駅 == 武蔵野市役所前 ANA382 便 京急空港線急行・印旛日本医大行 JR 山手線外回 JR 中央線中央特快・高尾行 関東バス鷹 03・田無橋場行	マロウドイン大宮 ☎：048-645-5111
	武蔵野市行政視察 午前11時00分から正午まで 【議会事務局】 ☎：0422-60-1882 【調査項目】武蔵野クリーンセンター (地域エネルギー供給拠点)	
	12:41 12:54 13:01 13:24 13:25 13:27 13:35 14:04 14:10 武蔵野市役所前 == 三鷹駅 == 御茶ノ水駅 == 秋葉原駅 == 草加駅 == 草加市役所 関東バス鷹 01・三鷹駅行 JR 中央線快速・東京行 JR 総武線・津田沼行 東京メトロ日比谷線・東部動物園行 徒歩	
	草加市行政視察 午後2時30分から午後4時30分まで 【議会事務局】 ☎：048-922-2489 【調査項目】そうかりノベーションまちづくりについて	
	17:46 18:08 18:19 18:41 草加市役所 == 草加駅 == 春日部駅 == 大宮駅 東武スカイツリーライン急行・南栗橋行 東武アーバンライン・大宮行	
10/19 (水)	9:17 9:41 9:52 10:02 10:10 10:28 大宮駅 == 川越駅 == 若葉駅 == 老人福祉センター JR 埼京線通勤快速・川越行 東武東上線・森林公園行 つるバス・南北線	
	鶴ヶ島市行政視察 午前10時30分から午前11時30分まで 【市役所 (代表)】 ☎：049-271-1111 【調査項目】eスポーツによる認知症予防について	

	<p>14:17 14:25 14:39 14:49 15:05 15:28 15:49 17:30 鶴ヶ島市役所 == 若葉駅 === 川越駅 ===大宮駅' ===== 糸魚川駅 つるバス南北線・若葉駅西口行 東武東上線急行・池袋行 JR 埼京線快速・新木場行 JR 新幹線はくたか 569 号・金沢行</p>	ホテル国富アネックス ☎ : 025-550-1000
10/20 (木)	<p>糸魚川市行政視察 午前9時30分から午前11時30分まで 【市役所(代表)】 ☎ : 025-552-1511 【調査項目】 鉄道を活かした駅前まちづくりについて</p> <p>13:47 15:52 16:09 16:15 16:30 16:48 18:20 19:40 糸魚川駅 ===== 東京駅 ===== 浜松町駅 ===== 羽田空港 ===== 米子空港 JR 北陸新幹線はくたか 564 号・東京行 JR 京浜東北根岸線・磯子行 モノレール空港快速 ANA387</p>	

旅費計算表

令和4年10月18日 ~ 令和4年10月20日 (2泊3日)

月 日	区 間	鉄道路線 名	区 間 キ ロ 数	目的地までの キ ロ 数	運 賃	グリーン	急 行 料 金		日 当 宿 泊 料		
							特 別	新 幹 線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
									随 行 1,100円	10,900円	9,800円
10/18	米子空港 ~ 羽田空港	ANA			28,870				1,500		9,100
(火)	~ 品川駅	京急			292						
	~ 三鷹駅	JR			396						
	三鷹駅 ~ 秋葉原	JR			396						
	~ 草加駅	東京メトロ			450						
	~ 大宮駅	JR			471						
10/19	大宮駅 ~ 川越駅	JR			330				1,500		11,590
(水)	~ 若葉駅	東武鉄道			199						
	~ 老人福祉センター	バス			200						
	若葉駅 ~ 川越駅	東武鉄道			199						
	~ 大宮駅	JR			330						
	~ 糸魚川駅	JR			5,170		4,730				
10/20	糸魚川駅 ~ 浜松町	JR			5,500		5,700		1,500		
(木)	~ 羽田空港	モノレール			492						
	~ 米子空港	ANA			29,370						
計	議員旅費			108,285	72,665	0	10,430	0	4,500	0	20,690
	随行旅費			0							

出席議員 渡辺議員、岡田議員、岩崎議員、戸田議員、奥岩議員、田村議員、稲田議員、西野議員、塚田議員

自由創政会派現地視察
東京都武蔵野市、埼玉県草加市、埼玉県鶴ヶ島市、新潟県糸魚川市

旅費計算表

令和4年10月18日 ~ 令和4年10月20日 (2泊3日)

自由創政会派現地視察
東京都武蔵野市、埼玉県草加市、埼玉県鶴ヶ島市、新潟県糸魚川市

月 日	区間	鉄道路線名	区間キロ数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金				
							特別	新幹線	日 当 宿 泊 料		
									議員1,500円 随員1,100円	甲 14,800円 10,900円	乙 13,300円 9,800円
10/18	米子空港 ~ 羽田空港	ANA			28,870				1,500		9,100
(火)	~ 品川駅	京急			292						
	~ 三鷹駅	JR			396						
	三鷹駅 ~ 秋葉原	JR			396						
	~ 草加駅	東京メトロ			450						
	~ 大宮駅	JR			471						
10/19	大宮駅 ~ 川越駅	JR			330				1,500		13,300
(水)	~ 若葉駅	東武鉄道			199						
	~ 老人福祉センター	バス			200						
	若葉駅 ~ 川越駅	東武鉄道			199						
	~ 大宮駅	JR			330						
	~ 糸魚川駅	JR			5,170		4,730				
10/20	糸魚川駅 ~ 浜松町	JR			5,500		5,700		1,500		
(木)	~ 羽田空港	モノレール			492						
	~ 米子空港	ANA			29,370						
計	議員旅費			109,995	72,665	0	10,430	0	4,500	0	22,400
	随行旅費			0							

出席議員 渡辺議員、岡田議員、岩崎議員、戸田議員、奥岩議員、田村議員、稲田議員、西野議員、塚田議員

議員旅費	108,285 × 3名 =	324,855 円 (10/19ホテル@11,590)	渡辺議員、岡田議員、岩崎議員
議員旅費	109,995 × 6名 =	659,970 円 (10/19ホテル@13,300)	戸田議員、奥岩議員、田村議員、稲田議員、西野議員、塚田議員
タクシー代	3,020 × 1 =	3,020 円 (10/18三鷹駅⇒武蔵野クリーンセンター)	
タクシー代	3,600 × 1 =	3,600 円 (10/18武蔵野クリーンセンター⇒三鷹駅)	
タクシー代	6,500 × 1 =	6,500 円 (10/19老人福祉センター⇒若葉駅)	
タクシー代	4,680 × 1 =	4,680 円 (10/19糸魚川駅⇒ホテル)	
タクシー代	4,620 × 1 =	4,620 円 (10/20ホテル⇒糸魚川市役所)	
お土産代	2,268 × 4箇所 =	9,072 円 (武蔵野市、草加市、鶴ヶ島市、糸魚川市)	
取扱料金	550 × 1件 =	550 円	

計① 1,016,867 円